

繪本
豐臣
勲功
記

七編
三

2209
63



遠 13
2209
巻 63



繪本豊臣勲功記七編卷之三 目録

素名攻長岡忠貞救中川 屬 大敗瀧川

中川兄弟守岡原烈戦の圖

平野権平弓精の圖

秀右授謀秀勝脩敷一益 屬 素名退城

秀右大不謀て素名長鳴と鷲うまの圖

豊臣巴一編卷之三



游川一益水門より落去まる図

秀吉選軍志津嶽構大營 属 謀略濃及

徳嶽柳濃西陣の真図

秀吉徳尾の絶頂小細佐の図

玄蕃使宇野説山路将監 属 正國感服

宇野悦容の図

繪本豊臣勲功紀七編卷之三

江戸 櫻澤堂山 編輯

素名攻長岡忠興故中川一属大敗一勝

宋均九江の太守たね。極虎も怖く江と濱り去威徳と容

し服さるん。智勇られも無小劣る。游川一益素名

小住し。自己が智勇小慢ぶる滅地の員小純さるあれ

千里の鐵橋小堅守との中も堅固ある事秘くす。然

る小勢州攻の徳大將羽柴筑前守田代少将秀吉六を陣

をりて神戸白子の隙間小備へ其道をと放火し威と

示もこと莫右あり。游川一益とれ氏略奮然とす大い小

勢を此上六猿西冠者が進ると待てを我遂進くと遊撃し



秀吉が膳所城へ入ると谷崎忠右衛門山路九郎太次は
 魁隊とあつた。九郎太次は一益へ。後陣小列は推後を。總
 勢五千二百餘騎。素名と發して神戸ある。秀吉が本陣常
 く進ませり。然るに大將秀吉は既小瀬川一益分。進進
 すとて於ては日ごろ大谷慶松本村小隼人。明石兵衛小
 三百餘人の強衆と率跟。謀計をよく謀合。退分あるは
 日市船を放火あり。次は羽柴於次九秀務と大將
 千々桑山修理虎中村孫平次加藤孫六海が二千餘人
 を相副して。白子の濱より船を出させ。海路は素名を推
 出させ別小高山右近ととて。一千八百餘人と率せ。あつた
 船より素名より。宮の摩小瀬りさせ。暗号の時刻と待たせり

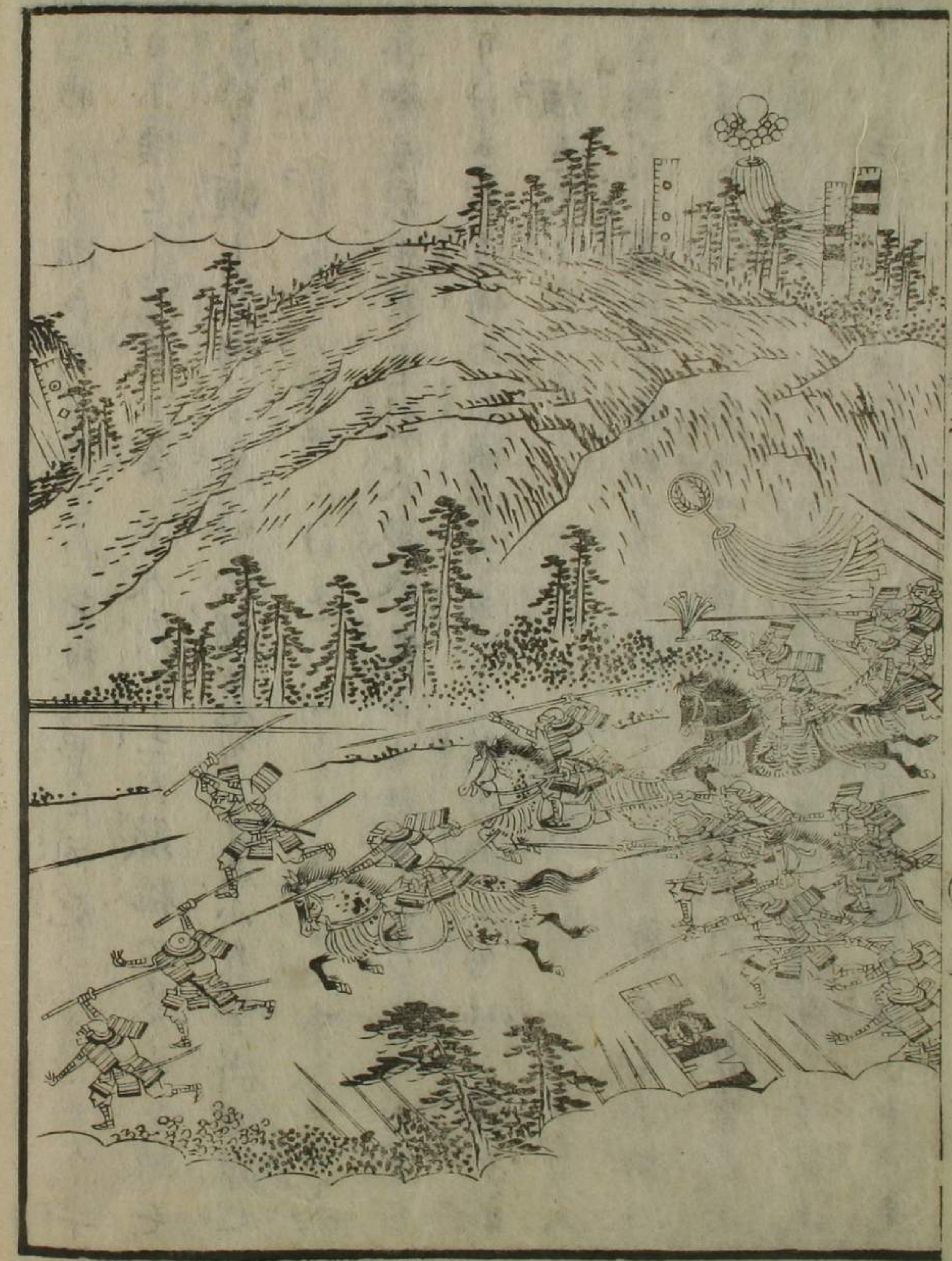
又手本道の列仕中川瀬長湯と先陣ととて。高岡川と
 背小あり。平湯と面す陣は結ぶが二陣は長岡豊一舟
 山方小勝く段隊あり。三陣は生駒甚助平野俊平津倉
 出羽守海山の總領小陣と構へ。他の如くは千生駒の
 大馬標は花吹風小翻らせ。大將秀吉は這所小出馬あり
 たる慈小齋せうけ。鏡と然と動つたり。然るに小瀬川の先
 陣山路九郎太次谷崎忠右衛門後の二千餘人の日ごろ款長の
 款次へ狼藉をなす拒抗んと。四日市退分と其所退
 すと。款長中と尋ねれども。後く針織のあつた事あり。此
 這の山際彼の林檎。處出陰段放火中々。瀬川勢を秀の
 しけるの。切つる合戦もありける由也。今ハ退とも所を

先や羽柴が陣へ推進一時小勝負と決せんものと陣戸
 を當り奔投しけり。高松川小隈と山ノ尾を略し
 親を千生乳の馬標と最喬しう小推立あり。諸を様
 符着こゝんあきと一條の連松道と改めり。先陣中川清
 秀が隊は小細く偶合あり。双方繼ぎ相つたるるゆゑ
 撓らひませぬ喊と登り。斜隊の秀統整合せ。挑菓をその
 中より瀬谷清が合身淵之助の今日の一番槍乃解あり
 と十文字の槍槍俤と馳出。敵の駛率と東西へ拂除と看
 る隙もあく。大喝一掃流川が先將山路九角を文益信を
 天面相小棚墮し首と取んとする。流川の兵士五六十
 一駿小馳進り首と渡と。個之雨を尖小捕稠微塵不劣ん

と戦ふ。瀬兵衛清秀これと見て骨肉同胞の愛情より平
 日小倍せし猛怒を登り。大夜叉王が鐵輪の象車と轉を
 威勢を顕し。谷崎が隊伍小。棚菓もこそ小。氣を得て御之
 助兄も劣らむ。奮突しけむ。同トく弟小七右あつ。辻
 兵衛も安声登り。烈火激水盤石も微塵小かさんと接し
 りけむ。了得の若崎忠右あつ。敵の丸と号けし陣列親
 と顔して止す。途かく六七町を。追起られし。浩るこころ
 小。滝川一益。魁軍難戦ありと。聆よりまいや。救へと馬小拍い
 れ。まがり正懸小馳出せり。老黨倉地郷太夫園部常藏。室
 山備中守。水嶋左一兵衛。海老名重右あつ。濟我劣らトと進
 ぐり。中川が隊伍小。近づくや唇や忽ち飛麟の陣をかし先



中川兄弟
 奮烈
 滝川勢
 高岡が原
 剛戦



徳川実業記 卷之十一

と谷崎岡部小任七。大將左近將監。倉地室山を。右小廻ら
 せ。水嶋海老名と一隊小ありて。左の方の横際より。咄と誓
 て。突鬼をバ捷驕る。中川勢も。暴隊の敵小當り。ね
 まう。怯で看る。ところを。敗走あ。る。谷崎も。岡部が勢
 小力を得て。左右の自分と。喊を合せ。五千三百一同。小火あ。ふ。か
 れと接。う。ければ。了。得。不。猛。さ。中川勢も。僕。燈。ふ。成。て。乱。起。
 瀨兵衛清秀。大小怒り。遂。き。自方の所。為。り。か。滝川あり。と。て。鬼
 神。小。も。あ。り。む。斯。ま。ぐ。捷。る。戦。を。逃。御。ま。る。い。底。事。ぞ。戦。場
 小。で。敵。死。す。る。い。本。小。帰。る。と。思。よ。や。進。め。く。と。激。喝。す。る。小
 ぞ。中川が隊の。勇。士。多。る。熊。因。在。三。兵。衛。市。浦。浪。之。助。大。滝。嶋。方。あ。り。の
 倚。主。の。詞。小。懸。ま。され。踏。堪。へ。立。整。さん。と。拵。け。ども。戦。疲。進。其。が

上。馬。致。の。暴。隊。の。大。軍。も。之。方。一。度。小。棚。起。る。れ。が。僅。に。堪。え
 後。力。あ。り。終。く。と。て。乱。る。核。會。す。二。陣。小。隊。引。長。岡
 與。一。節。忠。興。へ。進。程。う。ら。撃。く。中。ん。と。斷。踏。鳴。く。待。隊。も
 中川兄弟。身。乱。る。免。れ。鬼。也。ね。を。と。て。二。千。五。百。と
 雁。行。小。隊。伍。山。方。と。斜。小。隊。川。の。後。と。斬。ん。と。推。遠。し。如。此。と
 懸。く。近。着。し。難。あ。り。清。秀。と。故。中。自。方。と。懸。一。戦。ひ。る
 め。ぞ。滝川。の。兵。額。と。山。上。あり。ける。秀。吉。の。馬。標。と。心。當。り。中
 川。勢。と。斬。前。し。其。岡。小。あ。り。突。登。ら。んと。驀。地。小。清。勢。と。近
 起。る。後。路。小。長。岡。子。一。所。驍。蛇。の。度。と。追。ふ。如。く。喚。き。叫。び
 攻。着。た。れ。ば。滝川。左。右。あ。り。進。得。ず。隊。伍。と。返。し。て。戦。あ。ら。う。
 秀。吉。中川。清。秀。へ。長。岡。が。つ。め。小。虎。口。と。遁。を。姉。へ。傳。息。あ。り

くるが腕川勢一捲せし事、率の朽憾さし、源佐と警
 て示若び。馬と進めんとあし、なほ成熊田市浦瀬門ふ之塞り
 至煤の合戦、利刃か入る、益々不駛率と弱んより。這場ハ昔
 固く所獲あり。姑く休息ありし。玉つこ。漸くのこし、練止あり
 僅く退り、練方し、なほ悲しむ。長岡と一身忠貞ハ、申川勢
 と後陣ふ廻り。炮列、強隊、隙ありし。暴兵と奮地、不推せり。
 二千八百と二隊、不部、なほ長岡、助右衛門。之、岡平馬、清水
 縫之助、鶴翼ありし。推提、稠密。後より、大将忠貞、自身
 正射、不強、槍、陣、迫りし。敵の騎士、歩率、強弱、老少、拵ありし。
 捲起し。腕川勢、の、陣、路、を、断んと。息吹、敵を、攻、善、ける、由、を
 一益、大、不、敵、を、く、く、一、茶、後、不、暴、隊、の、敵、と、對、向、更、勢、を、死

自、兵、も、あ、り、し、腕、川、勢、一、捲、せ、し、事、率、の、朽、憾、さ、し、源、佐、と、警、
 勇、と、奮、し、奔、雷、の、勢、く、指、揮、し、け、れ、ば、又、千、不、敵、を、腕、川、勢、
 も、會、敵、か、の、一、驍、不、蹙、と。退、前、さ、れ、し、二、町、踏、つ、即、つ、敗、
 走、た、る。其、あ、り、し、も、谷、崎、ハ、初、度、不、羞、を、猶、踏、歩、り、長、岡、勢、
 を、退、返、さ、し。岡、部、室、山、小、村、海、老、名、か、の、一、備、不、投、り、返、し、
 忠、心、不、力、と、勤、せ。距、後、ありし。大、將、と、退、う、せ、んと、防、戦、不、活、し、
 こそ、ろ、く、三、陣、あり。高、岡、山、由、隊、一、將、率、野、持、率、長、卷、ハ、
 自、兵、僅、不、百、を、り、沢、根、後、く、山、通、鼓、より、躍、あり。戦、場、と、
 嚴、と、規、率、せ、し。大、將、一、益、遂、く、も、水、邊、倉、地、不、茶、後、と、守、し、せ、
 躍、進、行、後、身、と、視、る、より、不、速、く、弓、不、矢、搭、へ、視、固、て、肥、地、
 敵、ハ、腕、川、が、運、や、強、り、し、ん。朝、を、う、け、し、鬼、の、狭、と、拂、筋、と



平野長
泰弓精
依以
大滝川
一益
怖

豊臣記
卷之三



豊臣記
卷之三

射破て矢と共子。箭落し一益驚と。脊と踏く二の矢と避
 平野の初獲の矢と射擲。呵斥憾と垂矢と搭ひ。法烈しく
 切り放てば。一益が後伍不蝦傍くる。倉地卿と父が澄と搦る
 水島左一益坊が脊背より曾脛うけ。蓋心一寸血烟と共子
 射獲したれば水島をいふ場なき。苦叫あいら死うらと這り
 精不濇川勢も魂も身不絶もなき。逸脚傍傍不逃出せり。
 這駒中川清秀も夜令。理治たれば。初戦の遺恨と教さる
 長谷勢ふかと勢を借。追記捲付追分近あり。うら
 瀧川勢の敗陣より。身の扱六尺有餘の武士。若とめく大腹を
 描ある。標當高く翻り。取返しく長岡勢不。喘着を
 かり不擲く蒐り。追進欲出六七騎。敵不多れと満散。大音

声不乃郎の瀧川殿の箭黨不。海老名重右衛門と叫ぶ。この
 夜對をき輩へなきや。来れしと叫匪行へ。長思か二後
 隊伍の騎兵の中より。清水縫之助是ふあり。翌日の好不逃行
 奴儼ハ。助けらまんと思ひ。この命惜まを返し。あまも亦
 特りなき武士ぞや。捨る余儀拾ふ。得せん。去來。身は
 と様合暴風の像く撃太刀不。馳兩より。疾き陰の進退
 同あも止ぬ。兩士が烈戦。後兵へ互不迫づき。得を。汗と極り
 看守るうち。清水が聲。込大か。と丁擲く。重右衛門。右の
 肩より。膳を。斬下られ。鞍疔。まを。爛と墜て。死する
 這際不瀧川。主役ハ。漸く辛き死路と斬脱。日市を。退
 去り。長岡中川平野が勢も。これまを。あ。と兵と。擲る。務岡

發し、平野に控る。瀧川一益が盛を捨て、神
戸の本陣へ返軍す。三将等、軍の始終を筑前守へ
訴へられ、秀吉より感賞あり、功を芳らひむらり

秀吉授謀秀勝一益属兼名退城

愆大あらば破大あり。鯨の漢者と引か如く。愆小あらば有
ちやそ。拾の屠吏と避るか如し。然れども瀧川一益は今日
の敗軍と憾念おちひ。まづに日市と追分の際、小陣を構布。
緒將を集め、織々々々。敵名當日の捷軍、小心後て。
疲苦小辱。今宵多く熱腫せん。浩る機會こそ。夜替と
蒐づき、究竟の時あれ。各準備せらる。と言ひつゝ、終る
ざらふ。一軍と率く、ある者あり。是峯の城、小濃守在る

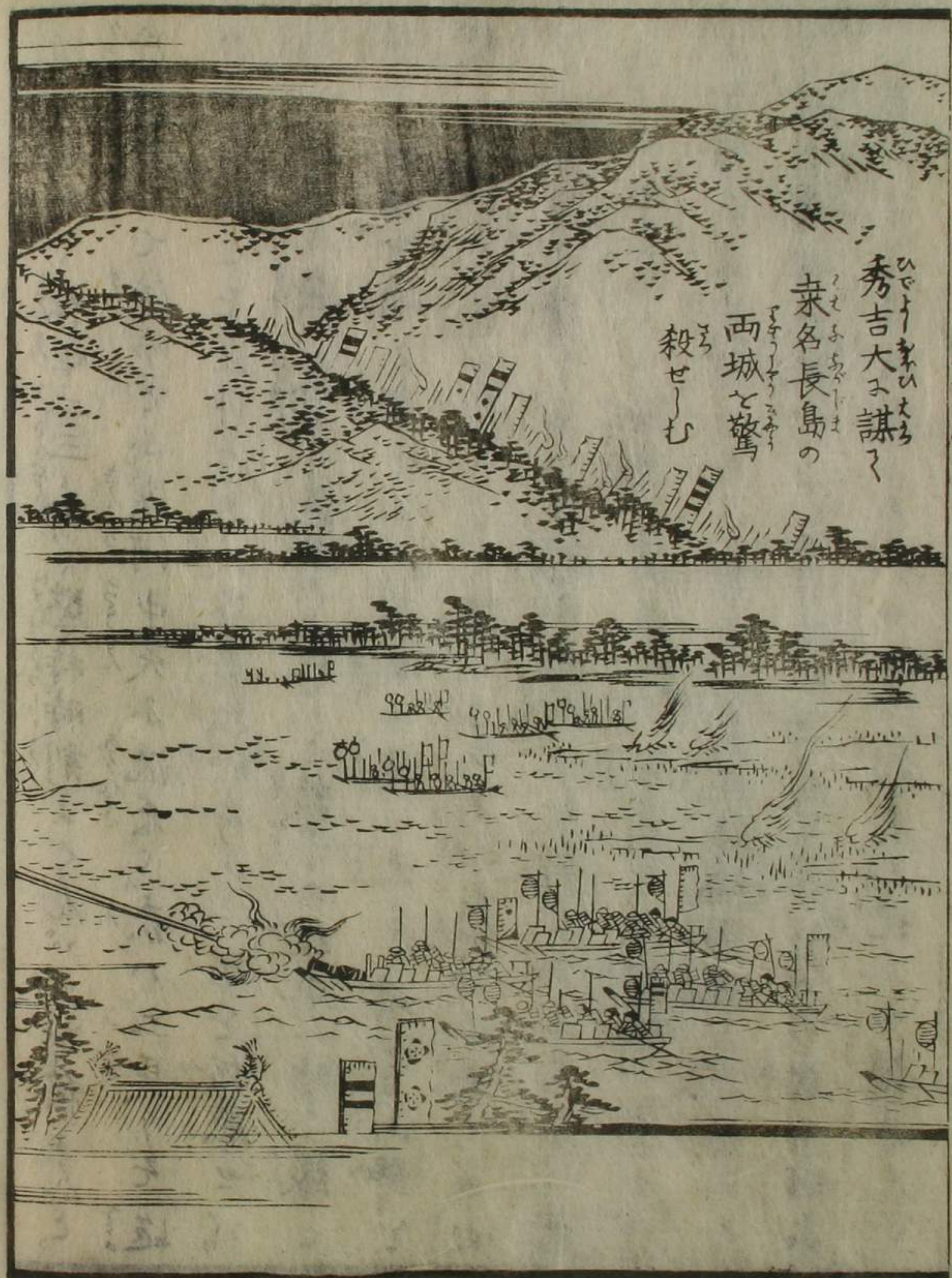
瀧川一益あり。同日の暮、小退城。日市、小退り、
瀧川の頭、夜替退び。終益軍、事小遠く。今
自方の銃を減さす。大将一益、小退り、言や。今
日細作の告ると、聆ふ。秀吉も、素名あり。本城と攻ん
ど、て、高尾河原、合戦す。自方大不破、うを承
所、斯く早く本城を救へ。取ものも取致せ。善を捨て
棄りたり。と重きふ。瀧川一益も、老功の智將、本城の一城
合戦危く。持得む。と、素知る。素知る。素知る。素知る。
て、退城。日市の養と忘る。早速助勢せ。素。退小神妙
の至あり。今、益大、益が暴兵と得る。夜替、小務べき。若
此あり。と、夜替の事と告ぐ。のち、益大、と、先冠と

五百餘人小火具を揃へ、敵の陣屋小火とつけし。其計略を
 練合せ、青地頼母、倉地郷を度し、七百餘人の各々を度し、
 左右小分を度し、儀を度し、故を度し、と儀教と定め、子の刻と
 して、お茶を度し、と暗号の時刻と復在り。其の闇き夜に
 赤松名魔小向し、羽柴於次九秀、秀勝、山崎、理光、
 小中村、孫平次、加藤、孫六、倭、少二千餘、高、山、右、邊、少一千五
 百有餘騎、海、沿、と、既、小、持、着、し、又、百、餘、人、小、火、を、守、ら、せ
 ち、勢、三、千、境、小、分、し、山、方、の、暗、号、と、窺、し、り、諸、亦、明、石、子
 田、原、大、谷、慶、松、本、村、小、集、人、の、二、百、餘、人、に、遊、り、を、し、と、放、火、し
 ち、後、藤、々、計、略、を、交、し、れ、ば、直、此、赤、松、小、向、し、田、邊、り
 の、山、く、小、二、三、十、人、づ、攀、登、り、松、炬、数、千、と、作、り、立、持、の、際、く、小

結着、少く松炬二三本、ぞ、發、持、時、刻、よく、ん、火、を、移、さん、と。
 片津の谷で待ちど、小、漢、河、中、天、小、流、來、り、夜、ハ、二、更、り、ぞ、迄
 びぬる、時、こそ、宜、けれ、と、大、谷、慶、松、暗、号、の、一、炬、を、振、照、せ、ば、
 西、小、邊、か、る、嶺、く、谷、く、と、ま、お、く、ま、と、數、千、の、松、炬、一、時、小、燦、と
 照、し、連、喊、を、咄、と、牽、ける、小、ぞ、炎、の、光、ハ、天、子、輝、き、山、野、を
 照、し、て、移、し、是、を、看、る、う、り、海、方、り、も、高、山、右、近、が、一、千、三、百、小
 山の像き、大、燦、を、五、六、方、所、小、燒、起、さ、せ、城、平、向、ふ、て、石、門、炮
 あ、ま、し、敵、を、蒐、く、と、隙、隙、も、あ、ら、せ、と、攻、蒐、る、小、秀、勝、が、隊、の、千
 七、百、騎、加、茂、中、村、二、方、小、部、を、率、え、赤、松、名、長、嶋、兩、城、を、攻、起、る、こ
 と、殆、ど、急、あり、城、中、の、兵、士、こ、れ、を、看、て、呼、り、つ、の、際、又、敵、兵
 ハ、斯、八、方、より、推、進、う、る、ぞ、天、り、や、遁、走、ん、地、小、や、隱、走、ん、い



豊臣記七編卷八



ひでよりの謀
秀吉大謀
衆名長島の
西城と驚
殺せむ

豊臣記七編卷之三

小川、一、と頭躍り。本心ある輩、徹けり。遠眺、素名長嶋の留守
 官、然、川、彦次郎。日置五郎左衛門。寨、樓、千、登りて、四方を、腰流
 是、々、全、く、敵の、討、略、内、外、の、自、方、を、欺、り、ん、と、斬、り、く、ぬ、羽
 柴、が、所、作、ら、る、ら、む、驚、く、こ、と、あ、り、れ、と、馬、騎、廻、り、て、制、止、し
 け、ま、ど、騷、動、更、小、鎮、す、し、次、進、兵、ハ、早、く、も、蝶、側、近、く、推、進、て、
 蝶、小、捉、着、跨、技、ん、と、屯、日、置、五、郎、左、衛、門、頻、小、指、揮、し、て、こ、ま
 を、拒、抗、と、つ、ふ、と、ど、ど、も、い、と、見、え、け、り、ゆ、名、預、て、大、將、一、益、が
 敵、残、せ、し、暗、号、の、烽、を、數、條、一、吐、小、放、沖、さ、う、け、ま、ば、進、兵、も、濠、川
 一、益、が、退、返、え、ん、こ、と、を、察、し、素、名、の、城、の、圍、を、解、三、千、殘、ら、む、船
 小、捉、系、長、嶋、の、方、へ、擣、出、し、て、闇、夜、一、燈、點、せ、ざ、ん、ば、い、づ
 く、小、敵、船、あ、り、と、も、知、ま、さ、む、其、れ、と、見、る、よ、う、山、方、の、諸、兵、も、一、時、小

松、炬、燧、を、も、と、せ、鳴、と、恐、め、窺、し、り、這、時、滝、川、一、益、ハ、夜、襲、の
 准、備、令、く、預、ひ、お、登、ん、と、ま、る、不、意、に、事、が、ね、あ、り、放、屋、き、よ、う
 預、く、命、屬、愈、々、と、輝、の、素、名、長、嶋、あ、は、れ、し、く、着、ろ、ね、ハ
 尤、道、の、隘、大、小、駭、き、是、統、率、小、川、に、ま、る、る、夜、襲、も、今、と、あり
 が、し、ま、り、手、返、せ、し、頻、小、指、揮、を、し、お、千、の、勢、と、二、隊、は、お、ち、滝
 川、我、を、交、青、地、嶺、也、よ、二、千、と、授、け、く、ま、ら、長、嶋、を、救、ら、ぬ、と
 魁、小、進、せ、し、一、差、ハ、各、陣、會、せ、し、後、距、き、お、も、擣、起、く、退、返、せ
 這、時、羽、柴、秀、吉、ハ、夜、中、と、い、ふ、も、意、邊、中、の、情、子、を、容、く、お、き
 け、る、ゆ、名、を、も、と、れ、所、知、し、り、先、陣、中、川、長、島、小、命、ト、擣、く
 せ、し、し、預、く、し、り、討、後、を、蝶、安、ま、ら、ね、ハ、中、川、長、島、志、の、む、や、ら、り
 二、陣、の、隊、伍、を、擣、出、し、退、分、の、遠、方、十、町、を、り、程、を、隔、く、通、達

軍と待合り。夜もちや二更と過るとおぼやく万積沈む
 こり兩三人の情子輩息と腹をく走り。今こそ素石の事
 起り。淺川一益輝く軍を返しありと告ぐる中川孫三郎
 と。二百條挺の鳥銃列を斜ふるも。松本一時も照し連火を
 小指揮し推せ。淺川勢の後距と一町をり隔ると看
 ぐればをち放せと二百條挺筒頭流し放る。城の夜は
 烈しけれもの。急ぎ退るを攻めたり。是も小篠長長
 流等とつゝ推進す。然るも淺川儀を交へ。接し推し退
 實る。ころ長崎の。松門進くあり。天の二日の闇あり
 松本も。幕後を見むるものあらねば。咫尺小山ありと
 其とも定り小篠へか。然るも松本も奇怪あり。今こそ

敵兵が。海も山も充滿し。退散さんと来て看まは
 敵一人もありあはぬ。斯のいふ小や。何事ぞ。狐狸妖怪の
 欺きしやと。怪しむたり。小勘果。途方を失し風情あり。
 斯てい果と城を投らんと。青地頼母が逸早く指揮を傳へ
 て城門開け。城を投らんと。かしける時。義太夫益益と
 を判し。何とて疏忽の所作を夜もま。曉ぬも入城
 あり。闇夜は紛は敵兵の倍を投らんも量り。侍よ
 侍よと判する際も。ちや四五百騎込投て。裡より扉を固め
 たり。儀太夫若びち驚き。危や投し敵のあらぬ。海方
 斯のいふとせんと進退す。迷ふて惘然たる機會こそ。海方
 忽ち振動して。一棟の寨接燦熾。是を暗号とみりけり。

夥の大砲一吐小隊起。多くも背門撃破りて。海方の三千
 五百餘騎潮の像く殺投り。正魁小城へ投り。是。大谷
 本村。明石。倭。三百餘人の強兵。て。青地頼母。自勢。又
 紛。登。くも城。又。込。投。て。寨。橋。又。火。と。う。け。焼。起。け。る。も。是
 を。暗。号。又。海。方。る。東。山。高。山。中。村。加。藤。於。次。丸。と。一。双。小。二
 の。丸。と。中。ぐ。系。捕。り。瀧。川。彦。次。郎。も。拒。抗。又。術。あ。く。闇。夜。を
 倅。僥。自。勢。僅。又。跟。従。一。徑。と。繞。り。て。義。太。丈。丈。勒。一。所。一。馳
 着。け。る。こ。ろ。漸。く。東。天。明。初。り。予。得。の。義。太。丈。詮。益。も。余
 詮。あ。く。彦。次。郎。と。伴。ふ。て。東。名。の。城。へ。退。る。ぬ。諸。亦。瀧。川。一。益
 の。敵。の。退。撃。も。事。も。や。と。隊。伍。を。系。之。後。徐。く。東。名。の。城
 へ。着。け。る。が。敵。も。嚴。し。く。退。却。さ。る。ゆ。え。曉。近。き。天。境。又。事。お

く城小投けるが。日置五郎左衛門出迎へ。夜中の敵の忽地
 起りて。忽地鎮り。惹び長嶋を改り。相の始終と語り在る
 ところ。瀧川義太丈彦次郎。青地頼母。倅も投来り。敵の奇
 計。又。滔。て。面。目。あ。さ。と。解。科。け。ま。い。一。益。彦。次。郎。倅。と。大。不。魁
 め。驗。又。怖。し。と。怯。面。う。か。我。を。ら。斯。す。で。難。ら。う。さ。進。て。河。谷
 へ。避。げ。こ。う。う。ん。思。一。バ。今。更。持。徳。さ。い。遠。一。益。が。身。小。こ。そ
 何。ま。數。年。織。田。家。小。忠。勤。と。場。し。軍。功。も。亦。寡。く。次。祝。小。東
 國。の。管。領。と。な。り。其。上。信。者。の。勇。と。号。ま。織。田。家。老。臣。の。一。個
 ぐ。身。が。言。詮。あ。く。も。唯。一。戦。又。利。を。失。ひ。纒。小。東。名。の。一。城
 を。身。の。安。所。と。お。を。こ。こ。の。我。が。ぐ。軍。慮。拙。き。始。終。あり。斯

まて還の逆せしも。天より羽柴と相くるりの。呼括憾や
 と一声叫べば。憤血激と流出り。緒將大周章驚き。勃抱ふ
 して圍裡に臥さしめ。要時養生せさせり。然るも羽柴秀
 吉の精隊を命せん夜の曉ぬらち。四日市まで推出させ。卯の斛
 天又總勢を駈起こし進ませり。素名の城を十重の重水漏
 さすと圍ませり。儲又仙石城。羽根田に三千餘騎を領せり。
 三十艘の艦船を。四日市より擲出させ。素名の海を磯道に。佐屋
 川辺まで推進らせ。海陸一時に喊を合せ。大砲小砲を乱發して。威
 を示すこと博大ある。智勇も長る瀧川も。羽柴が奇計は一皮
 あら。再三不覺と溜るる。峯龜山。長嶋まで。一日一夜に棄捨れ
 股肱の勇士も。悔しく戦死せしが。益今も是きあり。お死の氣色をりけるを

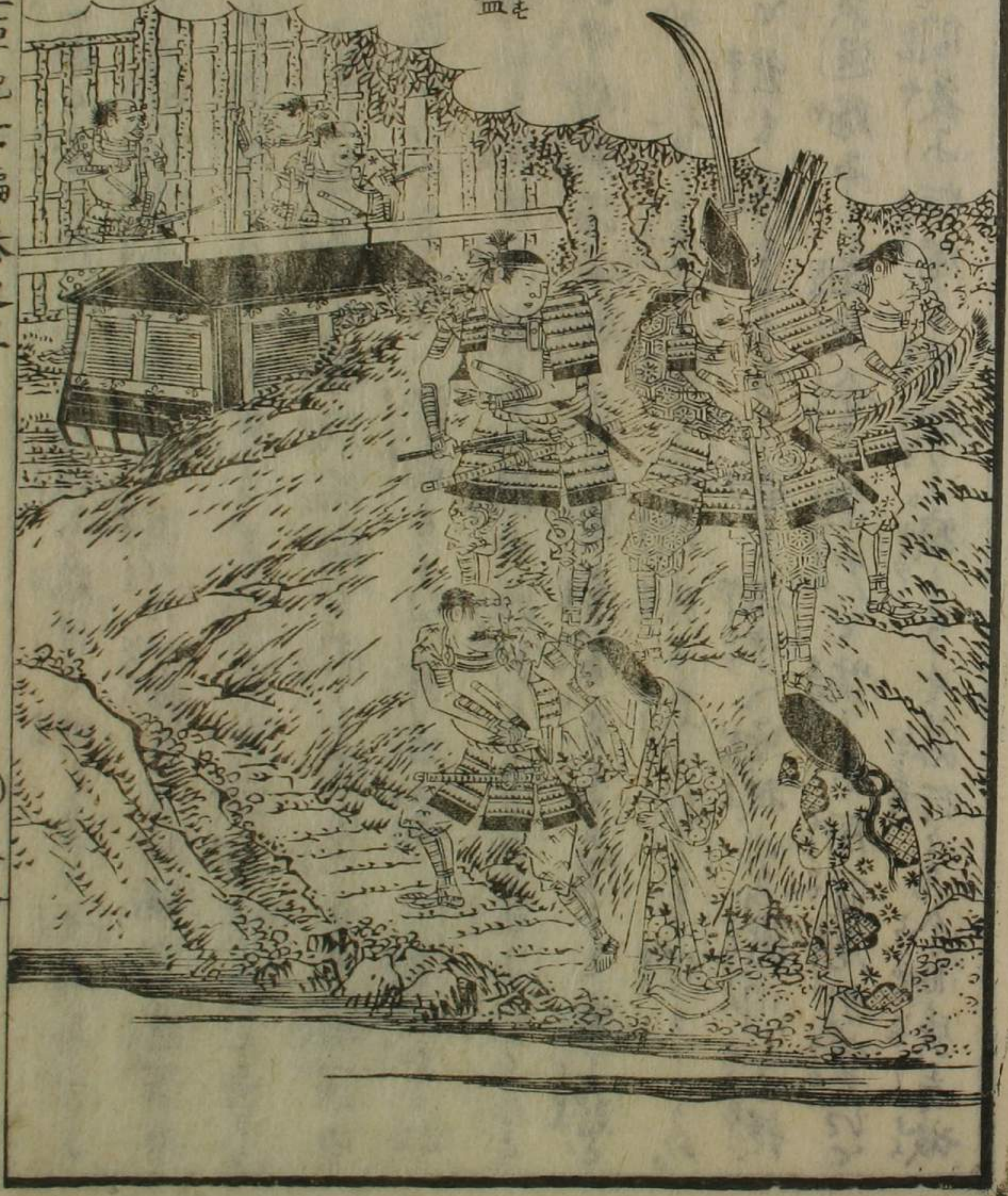
備を又珍蓋をとりり。台傍金地。室山あんと忠義の諸
 勇士隊を。日。後。其の軍儀想遠して。這一城も遍るの細を。兵
 俺們を初藩代の忠臣。當城も死と決さる。思平むといひ。の
 いし。使率雜を。子。り。羽柴が大軍も。思怖ふ。一。向。渡
 小達びき輩あり。然るも。送城も合致さる。功あきこと。ふ。ゆ
 ら。らん。後。發。く。送。地。と。退。去。わ。り。尾。口。蟹。は。小。瀬。守。ら。せ。む。彼
 地の要害堅固あり。彼城も在り。備家か。出陣あり。む。ひ。
 兩軍一時に。起り。發。使。を。羽。柴。が。攻。め。ん。小。勝。る。道。理。乃
 ち。あ。ら。ん。や。ま。つ。く。姑。く。和。を。思。ひ。敵。の。脱。走。と。遊。む。一。日。突。に
 同様と。練。言。し。た。ね。が。一。益。勳。息。と。勢。を。負。し。既。に。今。朝。も
 滑る。ため。一。日。運。城。も。功。と。達。勢。伊。勢。三。所。氏。各。

素名の城も伊勢
 奉同はる伊勢

馬筋出〜敵近〜あるまゝ。小附と把〜搦〜をり。小搦儘頭收
 の証矢と活番あり。小林小搦〜大奮あげ。後集の策の返
 被せん。受ら〜。亦も終〜。羽向活〜。敢〜。放〜。観遠
 小林が。曾隔より大韃まで。搦換と射徹くれ直八。逆跡あり
 死去〜。是小搦と得〜。中川勢。観搦が千傳の洞を襲て
 右隣の洞中登る〜。奥付〜。攻起〜。城も這口を破
 ら〜。と。正圍〜。防我〜。炮小の黒雲。砲を起らせ
 又上の大楯。鬼魁と啼〜。爆〜。溜〜。大地と震ひ。山の〜。
 續給〜。見〜。那徑果〜。も〜。け。浩〜。不
 大将秀吉。あふ懐さ〜。ん。選深吹せ。諸軍と退せ。五ひ〜。
 諸り〜。諸方の軍勢。強感。氣〜。攻落と解。自己〜。陣

率退〜。城中〜。亦是と疾〜。備謀計〜。あ〜。と。逆跡あり
 せ〜。試合せ〜。進兵〜。荐び攻〜。わ。日。堂。山。軍の。花。後
 軍。強〜。人。小。孫。云。な。音。城。退。去。と。動。ろ。ろ。あ。急。り。討。又
 獲。氣。の。一。差。も。秀。吉。が。智。罟。小。陣。易。〜。わ。逆。〜。退。去。の。高。激
 又。極。り。逆。准。備。あり。逆。び。け。〜。送。裏。去。ら。ん。も。云。終。あり。一。段。あ
 〜。退。去。せん。が。怒。〜。〜。逆。撃。せ。〜。ん。然。バ。俺。們。勢。勢。と。荒。ん
 其。際。〜。谷。崎。日。香。の。個。〜。主。君。と。中。渡。〜。屋。主。と。滝。川。美
 活。舟。山。内。中。守。道。云。搦。出。〜。と。百。餘。人。當。夜。の。二。更。を。鑑。り
 瀨。中。川。が。陣。〜。推。進。〜。瀨。云。坊。清。秀。陶。新。あ。さ。せ。を。結。陣。〜
 々。れ。〜。捨。捨。縛。〜。正。魁。小。近。出。呼。継。〜。や。敵。の。不。行。勢。勢。を。〜
 と。そ。好。し。〜。れ。先。地。兵。自。兵。の。目。と。覚。さ。せん。ど。竹。葉。〜。を。て。燦。と

とまがらふまを
滝川一益
闇夜に
潜る素
名の城
を衰
脱了



豊臣記七巻之三



豊臣記七巻之三

海を一個も餘さず敵をせん。我も越けし時より十面を方よ
棚記より。流川室山兩将の。睦退口の。一戦あり。強く進軍の
陣營は。斬崩らん。わらの軍もせむ。二之夜接合するの。もみく
隊。能く兵と退散す。城門閉固し。固し。より。進軍の
陣。く。み。その。や。敵。勢。と。強。勸。ま。る。武。秀。吉。後。令。と。お。され
敵の進。する。陣の外。後。合。の。隊。列。あり。とも。案。よ。動。く。と
あり。れ。中。川。鉄。源。不。將。す。れ。軍。令。者。を。あ。る。と。實。く。進
指揮。せ。れ。る。案。よ。遠。を。清。秀。も。あ。る。守。り。し。る。
隊。伍。と。世。も。攪。ま。る。と。あ。く。遠。は。敵。中。に。逆。投。す。流。川。を。後
ま。り。成。退。隊。中。に。高。取。合。し。甲。戸。と。情。く。し。用。脱。尾。州。懸。い。と
高。中。周。夜。不。炬。燭。も。最。徹。く。寂。く。し。て。落。行。る。今日。秀。吉。城

攻と大急ふ止むひん。是も城より。案。回。務。家。出。軍。の。よ。を
沿。伸。せ。し。ゆ。も。それ。と。あ。る。は。諸。將。と。退。し。り。却。て。敵。も。退。が。い。せ
て。謀。計。あり。と。情。く。し。る。案。よ。不。將。す。れ。軍。令。者。を。あ。る。と。實。く。進

秀吉選軍志津嶽構大營属謀後濃州

死をさす。夜痛。良業。と。志。を。括。ま。る。案。よ。あ。る。清。宗。と
瀧。く。小。瀬。し。流。川。庁。附。の。危。急。と。凌。ぐ。案。回。も。出。陣。も。知。る
づ。き。よ。其。と。知。る。と。逆。城。せ。ん。天。下。に。羽。張。と。取。る。あ。る。ん。出
り。か。よ。昨日。来。の。き。る。高。天。江。州。長。濱。の。城。者。津。永。石。見。守
ま。下。本。太。房。一。條。の。頭。馬。使。来。り。し。小。國。の。藩。將。案。回。務。家。作
久。間。玄。蕃。と。先。陣。た。し。り。あ。昨日。七。日。く。ま。や。く。も。江。小。柳。ケ。瀬。ま。を
出。陣。つ。り。ま。り。早。ね。と。越。く。と。秀。吉。聆。し。り。あ。案。よ。不。將。す。れ。軍。令。者。を。あ。る。と。實。く。進

一と緒將と集り軍議を申し、此日の如く料理し、御とて
 當夜返城せしむ。長濱、赤名、峯、龜山、送田、筒城と、佐
 旗、小安、属、まの、せ、次、小濃、州、改、身、城、の、壘、守、と、別、く
 指揮せん。九日の夜、明、小、赤、名、より、船、小、乗、され、諸、軍、を、瑞
 作、屋、川、より、大、垣、ま、く、送、登、大、垣、の、城、に、投、入、し、池、田、父、子
 二、対、面、あ、つ、く、濃、州、壘、守、の、事、と、議、せ、し、む。池、田、指、系、遠、後
 小、幡、屋、出、羽、中、段、當、副、重、同、日、送、地、と、稱、せ、し、む。小、幡、當、て
 推、出、を、其、勢、五、万、八、千、餘、騎、江、名、坂、田、部、春、照、より、石、田、誠、一、く
 長、濱、小、出、む、し、これ、を、部、伍、と、定、め、し、一、番、の、堀、之、を、守
 秀、政、二、子、除、騎、二、番、の、長、濱、の、城、番、と、力、神、谷、誠、中、守、定、教
 山、路、將、監、正、國、大、将、後、八、席、友、兼、足、田、右、近、貞、宗、保、三、子、除、騎

二、番、少、木、村、小、集、人、成、昌、堀、尾、茂、助、吉、晴、木、下、將、監、利、繼、保
 二、千、餘、騎、一、番、の、赤、田、孫、右、衛、門、長、春、加、藤、作、内、系、教、清、野、孫
 三、番、長、政、一、柳、市、助、直、盛、保、二、千、餘、騎、又、番、の、生、物、基、助、親
 世、尾、田、官、三、番、孝、高、明、石、共、三、席、全、友、木、下、勘、将、由、左、衛、門、利、國
 大、垣、金、右、衛、門、正、貞、山、内、猪、右、衛、門、一、豊、尾、田、甚、右、衛、門、長、基、保、一、万
 除、騎、一、番、の、小、幡、屋、次、中、村、孫、平、次、一、氏、保、三、子
 除、騎、七、番、の、羽、柴、英、濃、守、秀、長、一、万、除、騎、八、番、の、筒、井、大、和
 入、道、順、慶、六、千、餘、騎、九、番、の、赤、松、次、郎、則、之、幡、頭、賀、彦、右、衛、門
 正、務、一、子、又、十、席、家、正、伊、藤、掃、部、助、祐、時、保、二、千、餘、騎、一、番、の
 赤、松、孫、三、郎、則、村、神、子、四、半、左、衛、門、通、清、千、七、百、餘、騎、又、番、の
 長、谷、共、一、席、忠、奥、三、山、右、近、長、房、赤、山、修、理、亮、一、春、又、子、余

騎十二番少一羽葉 於次九秀務 他石持会海兵衛久一万除騎
 十二番ハ中川願会清秀羽根田岳門守。之予除騎是と
 本軍の大隊候。十二除菟理と稱ふ。備後陣少大總大将羽葉
 筑前守秀吉あり。羽翼小從率門少。如藤虎之助清正
 石川六助貞友平野権平長春。片相助徳且基。加藤孫六
 嘉明。これ候。右隊とす。福海市松正則。服坂甚内
 安治。糟谷助右衛門武則。大谷慶松。吉隆。淺野八景。右衛門
 政治。これ候。左隊小近行せつ。も。送勢一万又千除騎。末後遊
 軍の隨仕少。杉原七舟。右衛門。荒木平右衛門。氏朝。候。二千
 除騎。各糧小荷駄の案願。其外國士。諸軍人。新系。近
 著の集勢。残。これ候。算。これ。都合七万八千九百余騎

本軍當て進發あり。其日ハ卯月の十日あり。と。送小水國の
 先陣。佐久間玄蕃元盛。改。又日小水庄と。桑向。周月
 七日。小水別あり。折瀬。境。小着。ける。大將。柴田。務。家。ハ。建
 途。中。軍。馬。と。留。り。款。地。の。窟。変。と。窺。え。ん。今。在。り
 澤。留。を。懸。る。小。玄。蕃。盛。改。ハ。情。勢。緩。急。ナ。リ。ト。折。瀬。近
 邊。と。故。火。ナ。リ。
長瀬の通傳ハ早水村ニ在リ。曉將ハ早水村の尾に在リ。其の故火ハ、
 曉將ハ早水村ニ在リ。曉將ハ早水村の尾に在リ。其の故火ハ、
 天神山の壁守り。儀見。對馬守。小。二千。余。騎。の。告。を。よ。り
 本軍。池。原。山。小。陣。治。せ。
池原ハ天神山の西に在リ。十八町のあいだを隔つ
 本軍。回。折。山。の。壁。守
 小。水。不。破。者。之。小。二。千。余。騎。の。勢。と。授。け。て。小。水。山。又。活。路。と。せ。
小水山ハ小水庄の北に在リ。活路ハ小水庄の南に在リ。
 小水山。不。破。者。之。小。二。千。余。騎。の。勢。と。授。け。て。小。水。山。又。活。路。と。せ。
 行。一。軍。少。又。千。余。騎。少。隊。候。と。堅。中。これ。より。西南。小。連。り



佐久間
 盛政
 瀬邊の
 在郷を放
 火あしき
 行一山小陣
 とやし。

豊臣巴二編卷八

三十三



豊臣巴二編卷八

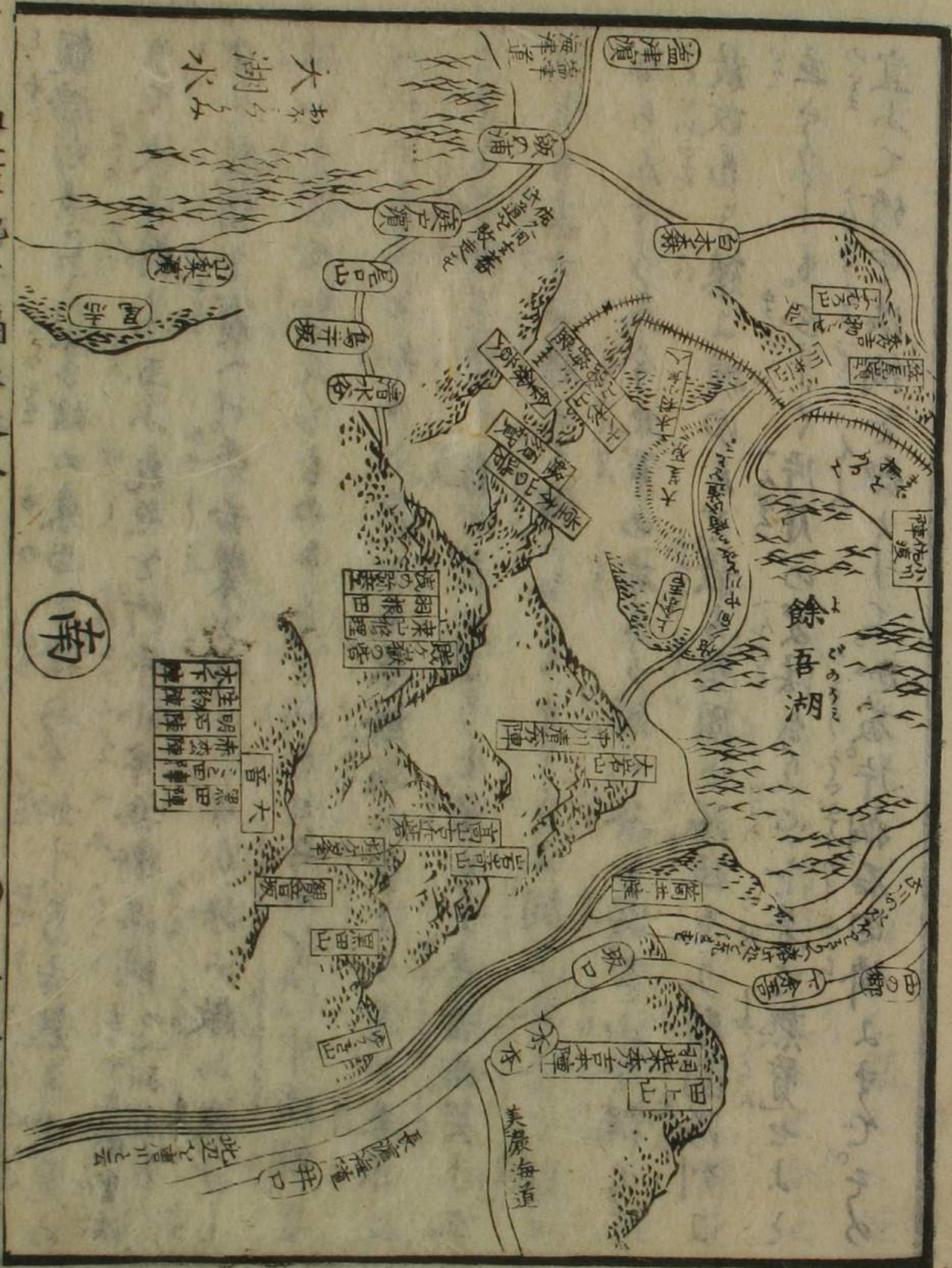
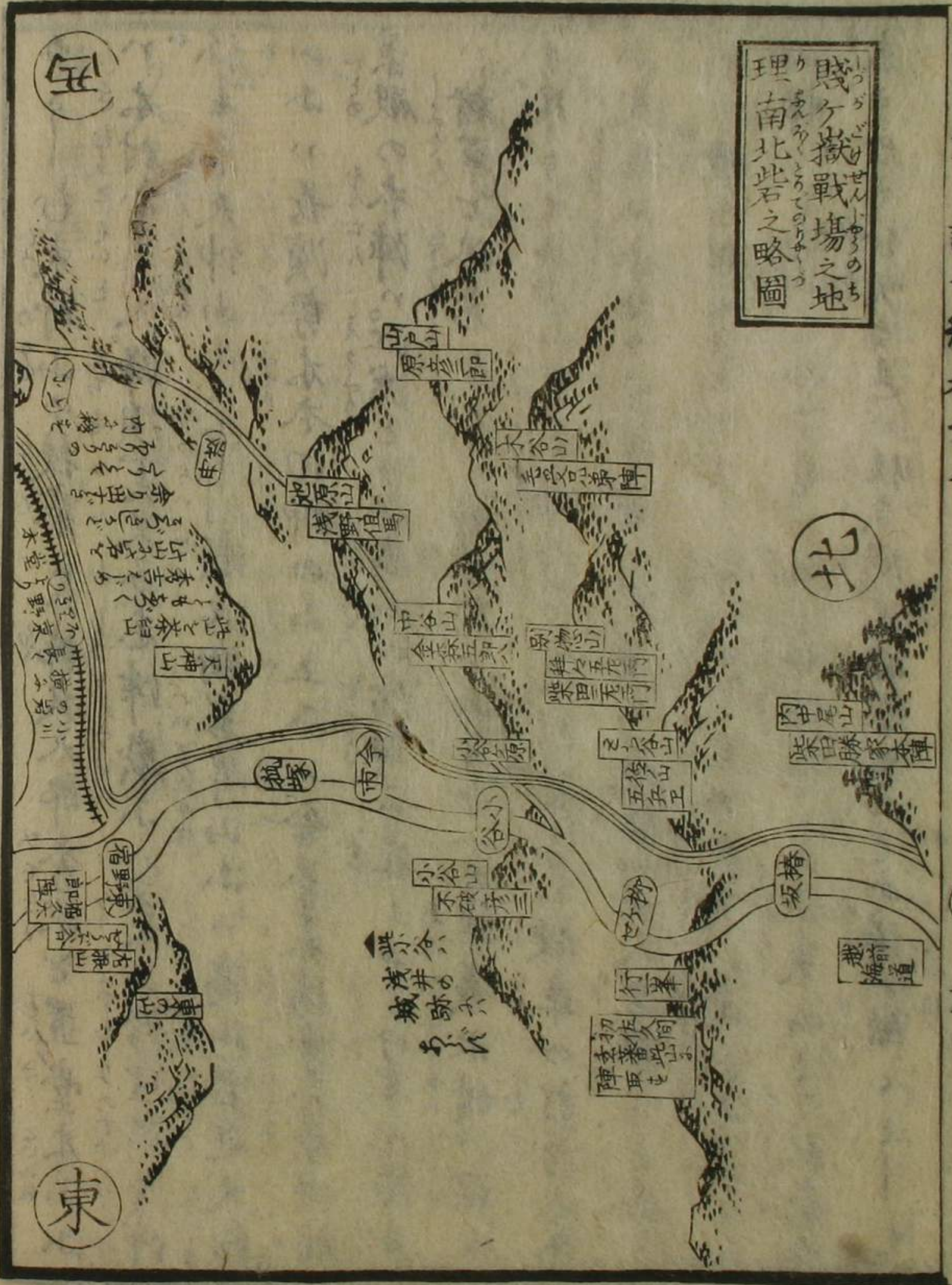
三十三

らぐ魁軍松倉右近方角奥山三方あり、城の先雨勢ぶつろ六百
 かりを駈出し、喊を發し鳥銃を放菟、呻く声して佐久らる隊
 伍を的小當、今市が原まで推出た。こを看るより越赤勢
 も魁隊の駛卒を推出し、喊を合せ鳥銃をも亦方らドと發
 放く、防戦ふとつふとつども、切の之猛くもあつごまは、奥
 山松倉奮然として、長柄隊伍を操出し、驀地ニ突出るしけ
 る小ぞ、其勢ヲ怖らうけん、咄と崩て敗走と方勢ハ勝小
 宗て、小谷河原へ推出たを、堀久太郎これと制し、止禦吹を返
 返さしむ。是秀政も戦場熟練の智將なまは、敵の謀計もあ
 らんやと、急小返陣をかさうり。遠响大將秀吉卿、堀が指
 揮の深慮と感ド。志をく賞養せられつもの。さか返く小在陣

流布を以て
 其の平陣
 とあるは
 一は、其の
 地をあらわ
 いかや

みまむ。東野山の技、寨の堀久太郎秀政を置、堂本山小
 本村小隼人、峰頂を父子志津嶽小、東山修理亮、浅野
 弥左衛門、天神山小、中川瀬兵衛、岩冢山小、高山右近、大杉
 山小、長濱勢、本本四神の山上小、舍弟、養濃守秀長、猪羽
 柴殿の本陣、江渡とつふ高山の指、岬又在し、中けるが、其目
 の緒軍を休息かすの、曉れが四月十一日旭熾水精を、嶽よ
 り昇りて、まご一竿の高あつごま、其身の駛卒の打拵志玉
 ひ文室の上あつ、世尾嶺の絶頂ニ、庵従四、人召率らる、備く
 然と登らせあふ。今日や、靨て照る日の光明、江南に小悉く、
 満輝く、つふとつども、山西の嶺、暹明して、山東あつ、秋毫の
 末す、分明あまは、佐久間、不破、原あんの陣、皓くして

賤ヶ嶽戰場之地
理南北此之略圖



観諦むること。密裡の東西と拾ふが如し。秀吉熱く御覽ありて。大に感へ。吾ふ氣を竹中小平兵衛治綱古半兵衛重治の二子なりの密と顔相を窺へば。秀吉聲を標ふし。汝の敵の殺け陣を定んで知りつるものあらんと同くせ。あふと竹中治綱。なつばいこそを知らしむ。原謙退の勇士なまは。卒示よこそを各得む。曾て存ぞいななりと。稟を秀吉微笑し。玉ひ。よも某方が織ざる陣は。なるまじき。綱を秀吉小謙る。みらんずらん。今北軍の布る陣。谷を跨ぎ山を隔て。最攻易と態。又視ゆ。最も堅固の隊伍あり。團圓隊列。立く。りも。正しく片月の変法あり。心を着て。執覽せよ。と。宜ふて竹中治綱を頼りて。加茂。片桐。石田。俣。よませ。その

大策を教ふ。各これと感察を。君を守護して鎮くと。尾の嶺を東へ下り。江波の本陣。又投玉。緒將を集めて命せける中。昨日の佐久。が戦相。未勝敗も見え。先。陣を退し。意得ごと。今日。尾。又登りて。視ま。敵の陣法。と。理小稱ひ。容易破ること難し。遠をりて。察すれば。勝家。原。来。愚。將。又。何。次。吾。と。久。く。遠。地。小。衛。置。其。余。は。勢。別。濃。列。を。神。戸。龍。川。又。平。均。な。さ。せ。其。勢。威。を。打。合。せ。ん。三。方。一。時。小。狭。と。遠。山。中。の。難。所。に。お。い。て。吾。を。拗。ぐ。ん。針。略。を。然。ど。も。吾。中。に。これ。を。快。し。り。量。察。し。う。今。亦。自。方。の。陣。營。を。熱。く。算。考。ふ。ま。は。い。ま。ど。不。足。又。悪。と。比。あり。餘。吾。の。北。有。る。天。神。山。の。敵。を。防。ぐ。小。要。崖。違。多。り。吾。今。図。を。り。て。教。示。す。べ。け。ま。は。要。崖。を。然。と

又手の併お
ふ合堂の相
と下又の相
上又の相
下又の相
又手用の
又手用の

中務家玄蕃と近く招くれ。工史やあつと可たをたねわ。盛改詔判
頭と傾け。又もして思ふと重く。つらつら。勝行進せし声と傳ふ
。合今欽の一奉場と。わうらつた工史が得し。守ら欽中の假寨
を守る。大将一個と。自方小勾引役事と。溝と。易うと。し。焼俣
大杉山小對嶺守。山崎將監正剛。系。柴田の家人。伊賀
守小屬と。そのあり。其と秀吉が。邪志。迷ひ。慈心。深き。魁松
奴。あね。款。ふ。な。さ。り。や。り。も。孝。嚴。父。の。荷。恩。多。う。り。自。方。で
唯。あり。とも。山。崎。と。交。深。う。者。と。使。統。小。遣。を。智。舌。と。つ。つ。と
為。控。一。自。方。小。屬。せ。あ。欽。の。要。屋。假。令。蜀。道。の。險。小。越。も
攻。易。う。と。づ。き。事。小。を。あ。る。其。の。懐。さ。さ。や。と。粟。ま。あ。を。勝。家。於。て
大。小。喜。悦。し。然。が。情。地。小。計。ら。ら。し。も。軍。議。決。り。玄。蕃。の。自。己

陣寨小歸り。密小親客を撰こける。粵又佐久間が。部下
る。宛。采。頭。宇。野。忠。右。衛。門。水。野。利。重。と。い。ふ。者。あ。り。渠。の。山。路
と。同。國。み。て。豫。て。熟。懇。み。り。け。ま。は。實。又。よ。き。任。の。人。あ。り
けり。と。宇。野。忠。右。衛。門。を。密。又。招。き。其。心。腹。を。搜。試。て。山。路。の
親。客。を。命。じ。け。ま。は。忠。右。衛。門。の。大。小。親。客。一。層。小。い。あ。り。む
と。い。へ。ど。も。浩。る。大。持。の。御。使。を。命。屬。ら。れ。五。ち。る。こ。と。遠。身。の
面目。こ。ま。又。過。む。い。り。小。も。山。路。を。親。探。せ。自。方。又。隨。さ。せ。ま
あ。り。む。べ。と。命。又。親。て。領。掌。を。一。使。者。の。口。狀。取。听。り。當。日
ハ。四。月。十。二。日。夜。の。成。り。ふ。ま。ぎ。至。ら。ぬ。ど。も。近。來。日。と。降。る。雨
の。纏。愁。も。な。く。て。寂。寥。月。の。東。山。小。崩。り。な。が。ら。山。下。陰。の。凹
凸。も。ろ。ろ。と。潜。行。身。の。驗。小。機。會。と。と。崖。を。傳。ひ。溪。を。跳

豊目言抄卷之三

三



御坂山

三十一



率服
秀吉
柴田佐久間
陣構と観
徹

御坂山

三十一

幸危と出て漸くふ。大杉山へ登り着。遠隊より那伍と窺ひ視る。
 最終明番燈のうへふ。然る幕の花号は。首認のある山路
 筋。そぞと躡倚津門よ。音声辨理消息をれば。番兵怪し。こ各
 むるを。乃郎の宇野忠方ありあり。將監刀祢と不同郷りて。
 深く交る者あるが密小禪むる條ありて。命を軽ふ。臻り
 たり。遠由告さへ玉をよと。言投けるふ。駛無輩も。よく忠太
 光つと者認けるゆゑ。即地主人と違へり。將監こそを聆
 散む。いりふも宇野の舊友なるが。今いちや敵とあり。逆互
 又雌雄と闘ふ身もよ。私事の對面あり。切膈の御
 入来なれども。遠赴を聆容玉ふべし。茶を荐び推返して。その
 小心の御程義なり。然いさうなぐ。平生の親交。淡くさる情

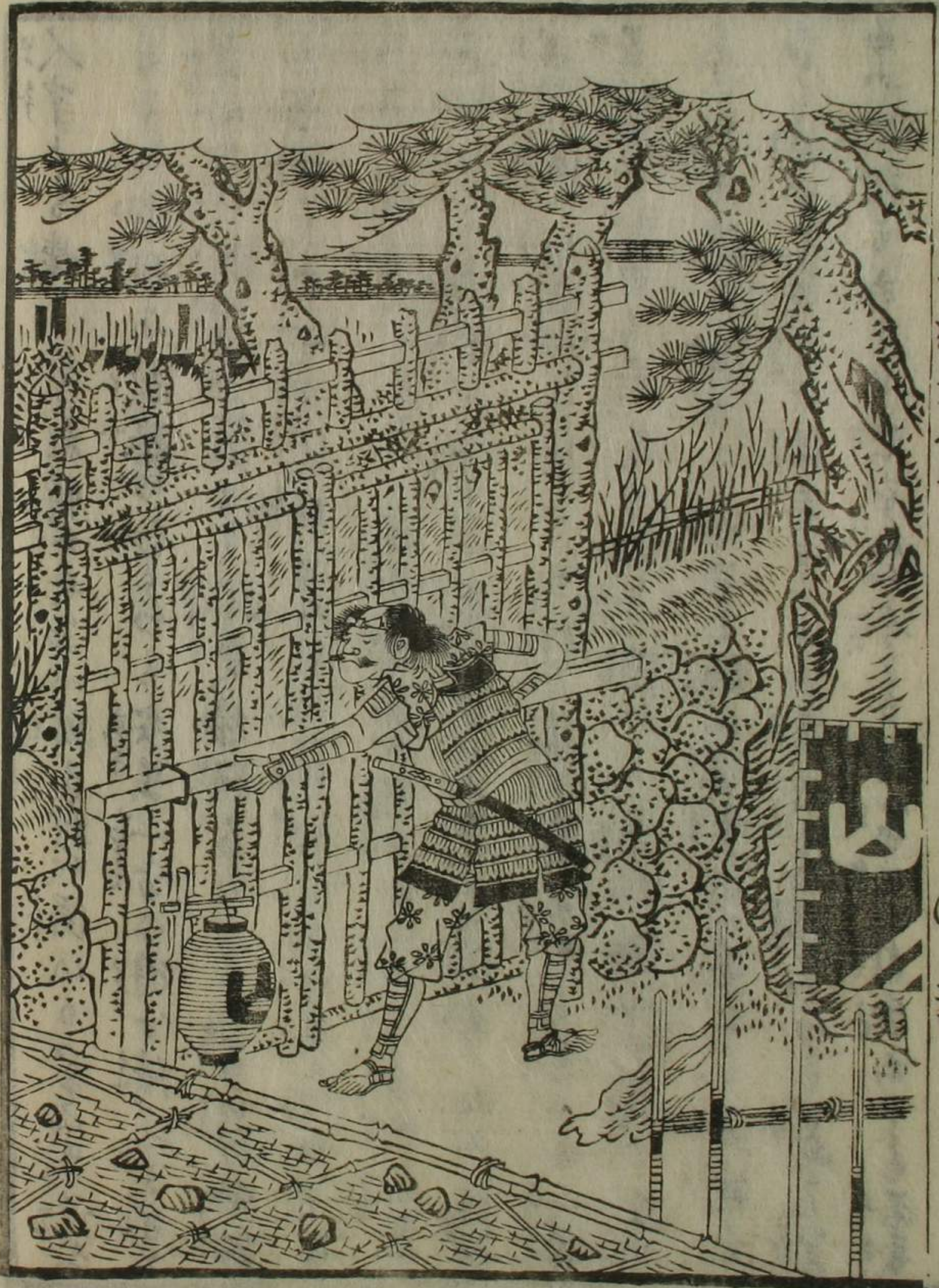
の弁か。斯深更ふ。訪ひつるも。吾生。ほし。一。言。粟。投。は。
 綱。り。得。森。狼。の。を。り。る。這。刻。不。審。も。さ。ら。つ。
 兩。刀。お。さ。う。も。さ。へ。と。て。山。路。が。駛。車。ふ。ら。れ。爪。探。し。是。州。討。
 面。を。と。望。け。る。ゆ。ゑ。刀。を。提。握。荐。び。山。路。を。告。ぐ。れ。お。監。
 も。有。係。膝。し。き。候。友。あ。ら。う。と。生。涯。ふ。一。言。粟。投。し。と。い。ふ。座。を。
 や。ん。と。記。念。な。し。あ。刀。を。よ。と。拵。去。さ。る。ふ。疑。惑。解。つ。忽。地。深。
 更。一。密。ふ。信。ひ。り。さ。へ。と。其。身。の。記。行。柵。と。圍。ひ。て。清。下。容。
 誘。り。上。座。小。座。と。ふ。り。別。後。の。控。れ。平。ら。後。忠。右。邊。の。山。
 路。ふ。駕。ひ。り。れ。生。涯。ふ。唯。一。云。於。此。に。記。こ。と。別。義。よ。ら。ん。と。
 下。の。背。勇。共。ふ。備。り。其。心。強。き。と。成。務。家。子。の。熱。望。せ。
 ら。る。也。よ。這。遣。秀。の。幕。下。と。な。せ。り。と。勝。豊。の。所。同。心。

名是地あり功ありと賞ありうらよも 城心ありあきべうらす
 ちりふ因て勝家公もたありと下と惜みあひ切ふ乃丈へ
 給しせらと目又下と乃丈が無意のちうと勝家も海を
 く懐る多ねてと吾も信く命叫られ強情 柴田家一途日
 の如く身荷担し 金をば勝家も大悦を極ふ存ふらうら
 運率 所回意ありふおろい乃丈までも大慶ありと東より紙
 吟く山路お監命の如く将監が秀吉の旗下となりしこと
 全く本心の石為ふありと吾も信く命叫られ強情 柴田家一途日
 徳永徳 自人と歎き斯始末これ本意あり存ふれども極
 なき造化あり今更柴田一隊しきつせ所 故とかりの事
 近來くらく面同なり 夢るふ不届の乃命と勝家公も斯計

人中とも懐しめされ時せせふ小隊あり保入りおそき後
 ちりふも那般小枝寨の印らも安属一方の將と清くも水が
 柴田の所 情持あれども今更 徳致ありとあきの徳清
 も極感し。今更 大人斯まの所 徳切かづけありはくも
 送義へ 徳谷なりが。送 徳恩ふん明日中も 双方合戦 徳ら
 其 胸とをへ 吾首とほく小進 徳りのま。徳 早ぬ小忠衣
 海門 甚い理ふ似とて。行く 病 徳と回さ。徳トの 一言
 義心ありあきり 一途の所 簡なり。系 柴田の 徳下なる
 その成 恩情の 徳源を 徳る 胸へ 徳費ふい 徳せる 徳理も
 あ。徳てや 死云の 徳あるとの 徳秀吉あり 徳らうら。徳とを
 あ。徳緒もあきり 徳をぬが 今より 徳家公へ 自方ありとも 徳



豊臣氏七編卷之三



豊臣氏七編卷之三

三十四

といひす。乃亦も赤所為。... 智勇の武士。那量の投塞
 と大持子守護し。... 泥程不没む。... 秀
 右足下の雲量。... 編め。... 紫田の旗下。... 武門の本意と失せん。... 巧み演。... 乃亦愚。... 今い足下の綱。

是バ恩賞いくそむくぞと。未探語と忠告。... 小飲い足下忠誠ある。... 万斛賜らんと。... 山へぞ還りける。

繪本豊臣勲切記七編卷之三

